



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：P5+1 の外相級会議（2013年9月26日）

1. P5+1 との外相級会合に向けての動き

9月6日、EUのアシュトン外交安全保障上級代表は、イランのザリーフ外相と電話会談し、第68回国連総会に合わせて米ニューヨークで会談することで合意した。アシュトン代表が訪問先のリトアニアで明らかにした。

同23日、訪米中のアシュトン代表とザリーフ外相がイラン核問題について協議した。両者の直接会談は初となる。協議後、アシュトン代表は「建設的な議論を行った」と述べ、P5+1とイランが、イラン核問題をめぐる外相級会合を9月26日にニューヨークで開くことで合意したと、国連本部で記者団に明かした。

同24日、米当局は、米国とイランの外相がイランの核開発問題に関する初の会談を行うことを明らかにした。ザリーフ外相とケリー米 국무長官が、ニューヨークの国連本部で開かれるP5+1との外相級会合に出席するという。

25日、ザリーフ外相はP5+1との外相級会合について、核協議の前進に繋がることに期待を示した。同外相は、合間にファビウス仏外相と言葉を交わした後「イランは真剣な交渉に向けて政治的な意欲と意思を持っている。相手もそうであることを期待する」「ファビウス外相とは、核問題協議の開始と明日の外相級会合について有益な話し合いができた」と語った。

2. P5+1 との外相級会合と米・イラン二国間の外相級会談の実現

ニューヨークの国連本部で、9月26日、イランとP5+1との外相級会合が開催され、次回の実務者級協議が10月15、16日にスイスのジュネーブで行われることが決まった。EUのアシュトン外交安全保障上級代表が外相会議後に報道陣に明らかにした。アシュトン代表は、「会合は中身があり、良い雰囲気、かつ精力的だった」とした上で、ザリーフ外相がこれまでと大いに異なるトーンや展望の提案を行ったことを我々全員が喜んでいと述べ、イラン側から核問題で前向きな提案があったことを示唆、良い雰囲気の中で行われた中身のある会議だったと述べた。「野心的な時間枠でいかに交渉を前進させるかを話し合った」と述べ、停滞している核交渉の加速化について協議したとして、会合は充実し、活発な議論が行われたと語った。

アシュトン代表は10月に予定されるジュネーブでの会合に関して、「今日の会合の内容を引き継ぎ、プロセスを前進させることを期待する」と述べ、「ジュネーブで費やす時間が細かい実務に繋がることを望む」とした上で、極めて現実的になる必要があると述べた。ザリーフ外相も会合後、ニューヨーク市内で、1年以内に核交渉を妥結させたいとの考えを示している。

ヘイグ英外相は、「会議の雰囲気はとても良かった。我々は今週ニューヨークでザリーフ外相と良い関係を築き、この会談もこれを反映していた。イラン核問題の交渉による平和的な解決の重要性と、それに向けた取り組みについて話し合った」と述べた。

イランと P5+1 との外相級会合に参加したザリーフ外相とケリー米国務長官は、短時間ではあるが二国間会談を行い、両者ともに建設的だったと評価した。両国の外相がイラン核開発問題の会議で同席したのは初めてである。ザリーフ外相は会談後の記者会見で、「イラン国民が核を平和的に利用する権利の尊重に基づき、この問題の解決に向けてタイミング良く前進できることを願う」と強調した。

P5+1 との外相級会合においてイラン側から提示された提案については推測の域を出ないが、24 日付の報道によると、イラン側は保有するウランを燃料に転用したり、第三国に搬出したりする案を示す意向を有しており、いずれもウランを核兵器に転用しない裏付けとなり得る措置のようである。保有する 185 キロの 20%濃縮ウランについては IAEA の監視下で燃料棒にして兵器への転用を不可能にする、濃縮率 5%の低濃縮ウランについては隣国トルコに搬出後、ロシアへ移送して 20%に濃縮し、燃料棒にしてテヘランの医療用研究炉に戻すという案らしい。同 25 日、ロウハーニー大統領は、米『ワシントン・ポスト』紙によるインタビューで、イランの核開発をめぐる欧米諸国との対立解消のための期間について問われ、短ければ短いほど皆にとって有益だとして、3~6 ヶ月以内に欧米諸国と合意することを望む姿勢を明らかにした。

(研究員 山崎 和美)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799